令和8年度全北海道技能競技大会　（道職能）
令和8年度全道建築大工技能競技大会（北建連）　成年組一級課題

一般社団法人北海道建築工事業組合連合会

[実技課題]　棒隅木振れ垂木小屋組の組み合わせ

Ⅰ　製作要領

次の注意事項及び仕様に従い、支給材料と定められた工具を用いて課題図に示された作品を製作しなさい。

1　課題製作時間　　5時間（競技時間）

2　注意事項

（1）支給材料の寸法及び数量は、支給材料一覧のとおりとする。
（2）支給された木材に欠陥があった場合は、競技開始前に審査員に申し出ること。
（3）加工を誤っても材料の追加支給はしない。
（4）支給した以外の材料を使用してはならない。
（5）工具は、使用工具一覧に示す物以外を使用してはならない。
（6）毛引き等工具の事前寸法合わせ、固定は行ってはならない。
（7）競技場所に携帯電話を持ち込んではならない。
（8）事前にAO版用紙に現寸展開図を作成し、競技大会会場に必ず持参すること。
（※　現寸展開図の審査は行わないが、順位決定等の参考にする場合もある。）
（9）**合板等への展開図作成、型板等と見なされる物の会場持ち込みは厳禁とする。**
（持ち込みが確認された場合は、不正行為とみなし審査の対象としない。）
（10）自己の作業区域外に木くず、かんなくずを出さないよう、整頓、清掃を行いながら作業を進めること。

3　仕　　様

（1）現寸展開図の作成
イ）現寸展開図は、必要と思われる平面部材展開図を任意に作成する。
ロ）現寸展開図は、手書きで作成し、寸法を書き入れないこと。（CAD作成図は不可）

（2）木ごしらえ
イ）各部材の仕上がり寸法は、現寸展開図によるものとする。
ロ）隅木上端の山勾配面及び加弓（かゆみ）取りが必要な振れ垂木の上端、下端面は、中しこかんな仕上げ糸面取りとする。（面取りしなくてよい部材はこの限りでない－－自己判断）
ハ）その他部材の仕上げは、機械加工のままでよい。

（3）墨付け、加工、組立て
イ）幅芯墨は、墨壺にて墨打ちし、枘厚さ墨は毛引きを用いた筋線でもよい。
ロ）加工、組立てに必要な墨は、すべて付けること。
ハ）全部材に芯墨（墨壺を使用）を付けること。
ニ）峠は桁上端とし、平垂木60を基準とする6／10勾配とする。

ホ）隅木には、桁及び束との取り合い部に、出中、本中、入中墨及び陸墨（水墨）を付けること。

ヘ）各部材は、平垂木立て水寸法を基準とする。

ト）棟桁に取り付く柱枘は、幅60㎜、厚さ24㎜で隅木を打ち抜く重ね枘とする。

チ）柱と梁の取り合いは、成幅打ち抜き枘とし、桁と梁の取り合いは、蟻落としとする。

リ）桁と桁の取り合いは、ねじ組とする。（課題図参照）

ヌ）隅木と桁の取り合わせは、落ちがかり勾配で仕掛け、上端から90㎜釘留めとする。

ル）火打ち栓は、矩勾配で打ち込み、桁前面から15㎜突きだし、木口面取りとする。

オ）振れ垂木の鼻先は矩勾配で切り、隅木と振れ垂木の取り合いは短枘差しとし、桁への取付けは上端から90㎜釘留めとする。

ワ）ねこ（飼木）は、所定の寸法とし、桁下端の芯墨に合わせ50㎜釘忍び打ちとする。

カ）~~桁及び隅木は、組立て前に審査員に提出して仕口加工の評価を受ける。~~

ヨ）上記説明以外の面については、一級技能士としての判断をもって製作すること。

(4) 作品の提出

イ）組立てを完了した者は、審査委員に申し出て作品を提出すること。

ロ）提出後は、いかなる理由があっても修正は認めないので十分に確認をすること。

ハ）提出後は、周囲に配慮しながら作業場所の清掃を済ませ、審査員の指示に従って速やかに退場すること。

Ⅱ 支給材料

※とど松上小節・機械かんな仕上げ

部材番号	部材名称	規格・寸法	数量	備考
①	柱	500×70×70	1	
②	棟木	300×70×85	1	
③	桁	550×70×85	1	
④	桁	650×70×85	1	
⑤	梁	450×70×85	1	
⑥	隅木	1，100×60×90	1	上端山勾配削り
⑦	振れ垂木	600×36×？	1	上端、下端加弓（かゆみ）取り削り
⑧	振れ垂木	600×36×？	1	〃
⑨	振れ垂木	500×36×？	1	〃
⑩	火打ち栓（ひよどり栓）	650×53×20	1	割使い
⑪	ねこ木（飼木）	500×70×70	1	3本取り

Ⅲ 使用工具

名 称	規 格 ・ 寸 法	数 量	名 称	規 格 ・ 寸 法	数 量
の こ		適宜	ド リ ル	ドライバドリル又はインパクトドリル	1
か ん な		適宜	墨 壺	黒墨	1
の み		適宜	墨 さ し		適宜
ス コ ヤ		1	さしがね	メートル目盛り	適宜
自由がね		適宜	直 定 規		1
筋毛引き	1本竿	任意	三角定規		任意
げんのう	大、小	各1	あ て 木	適宜	任意
釘 締 め		1	砥 石		任意
バ ー ル	平バール又はかじやバール	1	筆記用具		適宜
錐	穴あけ、穴もみ(電動用も可)	任意	加 工 台	必要な作業台持参可	任意

(注)工具破損時の対処として同一の予備工具を持参している場合は、審査員の確認、指示に基づき使用することができる。ただし自由がねの予備は認めない。

Ⅳ 会場に用意されているもの

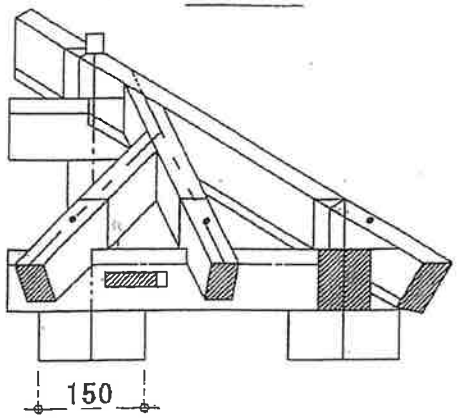
名 称	規格・寸法	数量(1人当たり)	備 考
削 り 台	木製座り台(かんな削り台可)	1台	
	1，200×300程度		
丸 釘	90㎜	5本	
	50㎜	6本	

全道建築大工技能競技大会成年組一級課題図(H22策定)

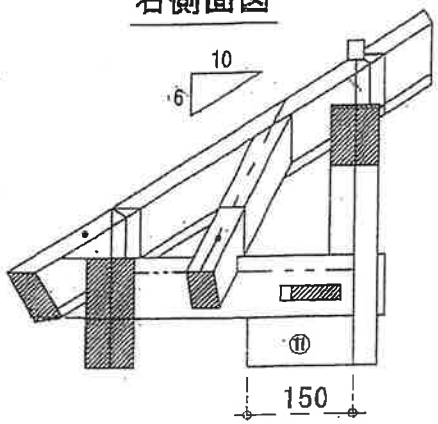
課　題［棒隅木と振れ垂木の組み合わせ］

(注)記載の寸法単位はmm

正面図



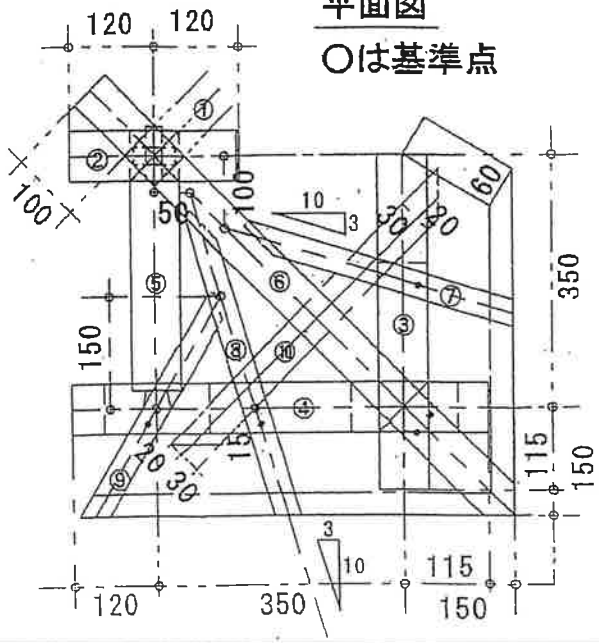
右側面図



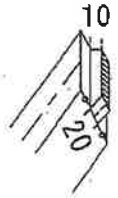
番号	部材名称
①	柱
②	棟　木
③	桁
④	桁
⑤	梁
⑥	隅　木
⑦	振れ垂木
⑧	振れ垂木
⑨	振れ垂木
⑩	火打ち栓
⑪	ねこ木(飼木)

平面図

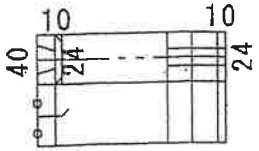
○は基準点



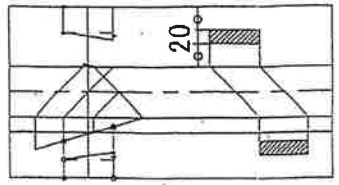
各振れたるき　ホゾ詳細図



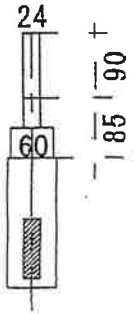
梁　詳細図



桁　詳細図



柱　詳細図



平成7年度全北海道技能競技大会　（道職能）
平成7年度全道建築大工技能競技大会（北建連）　成年組二級課題

一般社団法人北海道建築工事業組合連合会

[実技課題]　四方転び柱と隅谷木・振れ垂木の組み合わせ

Ⅰ　製作要領

次の注意事項及び仕様に従い、支給材料と定められた工具を用いて課題図で示された作品を製作しなさい。

1　課題製作時間　　5時間（競技時間）

2　注意事項

(1) 支給材料の寸法及び数量は、支給材料一覧のとおりとする。
(2) 支給された木材に欠陥があった場合は、競技開始前に審査員に申し出ること。
(3) 加工を誤っても材料の追加支給はしない。
(4) 支給材料以外の材料を使用してはならない。
(5) 工具は、使用工具一覧に示す物以外を使用してはならない。
(6) 毛引き等工具の事前寸法合わせ、固定は行ってはならない。
(7) 競技場所に、携帯電話を持ち込んではならない。
(8) 事前にA0版用紙に現寸展開図を作成し、競技大会会場に必ず持参すること。
（※　現寸展開図の審査は行わないが、順位決定等の参考にする場合もある。）
(9) 合板等への展開図作成、型板等と見なされる物の会場持ち込みは厳禁とする。
（持ち込みが確認された場合は、不正行為とみなし審査の対象としない。）
(10) 自己の作業区域外に木くず、かんなくずを出さないよう、整頓、清掃を行いながら作業を進めること。

3　仕　　様

(1) 現寸展開図の作成
　(1) 現寸展開図は、A0版用紙を用い必要と思われる平面部材展開図を任意に作成する。
　(2) 現寸展開図は、手書きで作成し、寸法を書き入れないこと。（CAD作成図は不可）

(2) 木ごしらえ
　(1) 各部材の仕上がり寸法は、現寸図によるものとする。
　(2) 谷木上端の勾配面及び振れ垂木の上端、下端面、加弓取りが必要な隅柱4面は、中しこかんな仕上げ糸面取りとする。（面取りしなくてよい部材はこの限りでない－－自己判断）
　(3) その他部材の仕上げは、機械加工のままでもよい。

(3) 墨付け、加工、組立て
　(1) 幅芯墨は、墨壺にて墨打ちし、枘厚さ墨は毛引きを用いた筋線でもよい。
　(2) 加工、組立てに必要な墨は、すべて付けること。
　(3) 全部材に芯墨（墨壺を使用）を付けること。
　(4) 谷木と桁との取り合い部及び配付け垂木には、出中、本中、入中墨及び陸墨（水墨）を付けること。

(5) 桁上端を峠とし、5／10の平勾配とする。
(6) 谷木部材は2枚合わせとし、32㎜木ねじ3カ所留めとする。
(7) 谷木は2枚合わせしてから墨付け、切り込みをしてもよい。
(8) 谷木と桁との取り合い部は落ち掛かり勾配で仕掛け、上端から65㎜釘2本留めとする。
(9) 谷木と隅柱の取り合い部は、2枚合わせ20㎜厚の短枘差しとする。
(10) 柱と梁の取り合い部は、腰掛け蟻とする。
(11) 桁と⑤柱の取り合いは、柱幅で桁を欠き取り側面より45㎜釘2本留めとする。
(12) 梁と④柱の取り合いは、襟輪付き蟻落としとして柱を落とし込む。(詳細図参照)
(13) 平垂木と⑤柱の取り合いは枘幅15㎜の短枘差しとし、谷木の配付け位置に側面から45㎜釘留めとする。
(14) 振れ垂木と④柱の取り合いは、振れ垂木上端心を柱芯に合わせ、上端胴付き直角で柱に枘厚さ15㎜の短枘差しとし、谷木取付け部は側面から45㎜釘留めとする。
(15) 貫の枘厚さは15㎜とし、隅柱に小根枘差し面打ち納め、④柱には通し枘差し、⑤半柱には大入れ通し枘差し45㎜釘留めとする。
(16) 笠木は柱芯に合わせた直角2方向に取付け、上端から45㎜釘留めとする。
(17) 上記指示以外については、二級技能士としての判断をもって製作すること。

(4) 作品の提出
(1) 組立てを完了した者は、審査委員に申し出て作品を提出すること。
(2) 提出後は、いかなる理由があっても修正は認めないので十分に確認をすること。
(3) 提出後は、周囲に配慮しながら作業場所の清掃を済ませ、審査員の指示に従って速やかに退場すること。

Ⅱ 支給材料

※とど松上小節 機械加工仕上げ

部材番号	部材名称	規格・寸法	数量	備考
①	桁	650×60×60	1	
②	梁	500×60×60	1	
③	隅柱	450×66×66	1	くせ(加弓)取り仕上げ
④	柱	400×60×60	1	
⑤	半柱	400×30×60	1	
⑥	間柱	400×30×30	1	
⑦	谷木	700×20×50	2	上端山勾配削り
⑧	貫(ぬき)	550×30×60	1	
⑨	貫(ぬき)	450×30×60	1	
⑩	笠木	700×20×60	1	切り使い
⑪	振れ垂木	450×30×？	1	くせ(加弓)取り仕上げ
⑫	垂木(たるき)	400×30×32	1	

Ⅲ 使用工具　　成年組二級課題

名称	規格・寸法	数量	名称	規格・寸法	数量
のこ		適宜	ドリル	ドライバドリル又はインパクトドリル	1
かんな	豆かんな、きわかんなも可	任意	墨壺	黒墨	1
のみ		適宜	墨さし		適宜
スコヤ		1	さしがね	メートル目盛り	適宜
自由がね		適宜	直定規		任意
筋毛引き	2本竿、鎌毛引き可	任意	三角定規		任意
げんのう	大、小	任意	あて木	適宜	任意
釘締め		1	砥石		任意
バール	平バール又はかじやバール	1	筆記用具		任意
錐	穴あけ、穴もみ（電動用も可）	任意			

（注）工具破損時の対処として、数量が定められている同一の予備工具を持参している場合は、審査員の確認、指示に基づき使用することができる。

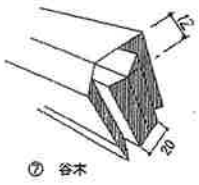
Ⅳ 会場に用意されているもの

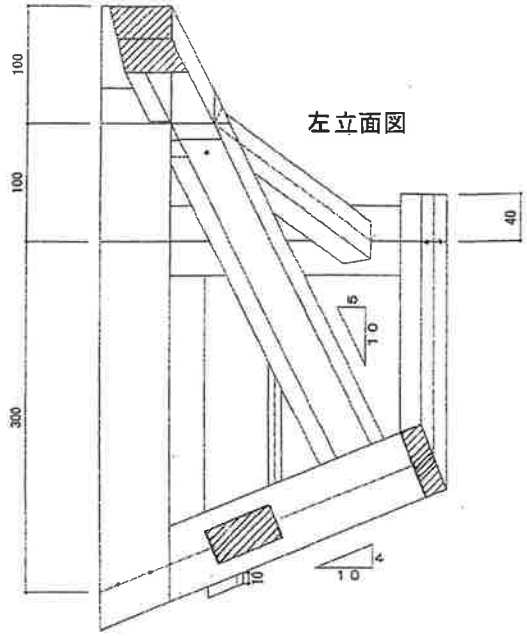
名称	規格・寸法	数量（1人当たり）	備考
削り台	木製座り台（かんな削り台可） 1，200×300程度	1台	
丸釘	65㎜	2本	
	45㎜	15本	
木ねじ	32㎜	3本	

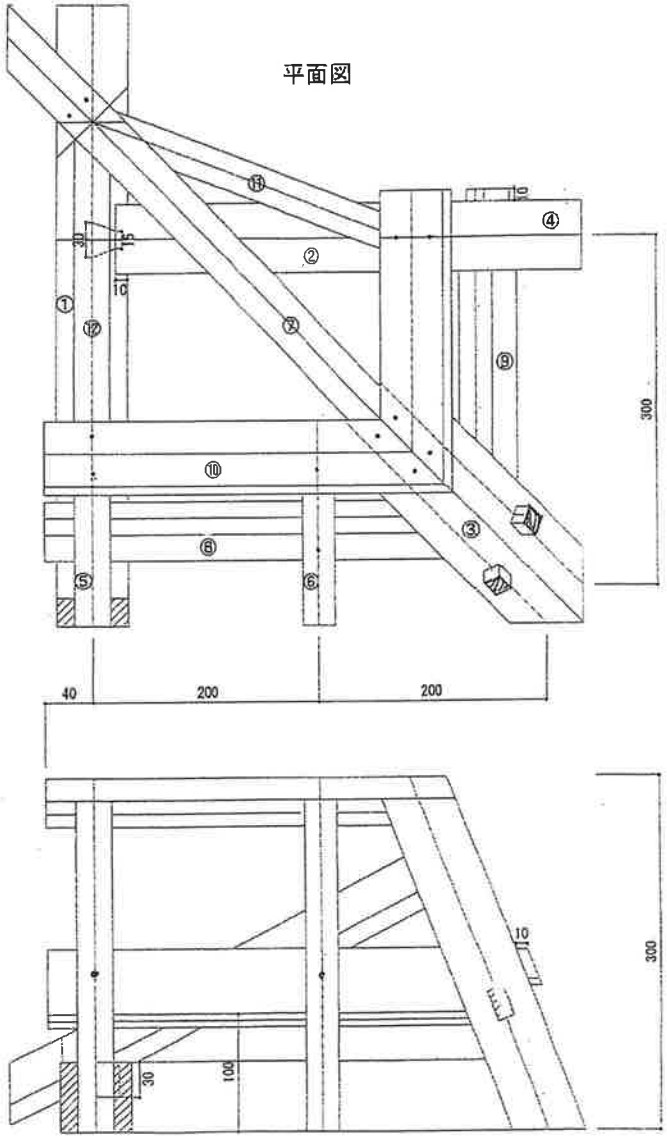
全道建築大工技能競技大会成年組二級課題図(H25策定)

課　題［四方転び柱と隅谷木・振れ垂木の組み合わせ］

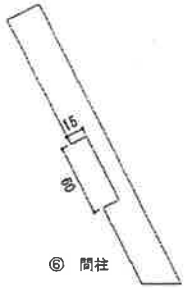
(注)記載の寸法単位はmm

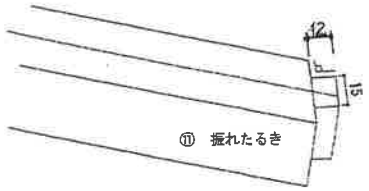


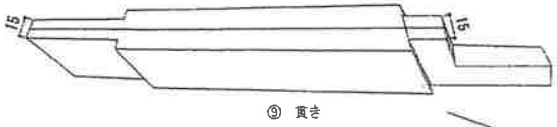




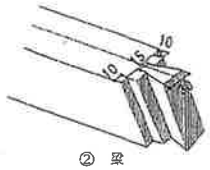
部材名称	
①	桁
②	梁
③	隅　柱
④	柱
⑤	半　柱
⑥	間　柱
⑦	谷　木
⑧	貫
⑨	貫
⑩	笠　木
⑪	振れ垂木
⑫	垂木











各部詳細図

令和8年度全北海道技能競技大会（道職能）
令和8年度全道建築大工技能競技大会（北建連）少年組課題

一般社団法人北海道建築工事業組合連合会

[実技課題]　通し柱と胴差しの組み合わせ

Ⅰ　製作要領

次の注意事項及び仕様に従い、支給材料と定められた工具を用いて課題図で示された作品を製作しなさい。

1　課題製作時間　　4時間30分（競技時間）

2　注意事項

（1）支給材料の寸法及び数量は、支給材料一覧表のとおり。
（2）支給された木材に欠陥があった場合は、競技開始前に審査員に申し出ること。
（3）加工を誤っても材料の追加支給はしない。
（4）支給した以外の材料を使用してはならない。
（5）工具は、使用工具一覧に示す物以外を使用してはならない。
（指定工具以外の持ち込みは、不正行為とみなし審査の対象としない）
（6）競技場所に、携帯電話を持ち込んではならない。
（7）自己の作業区域外に木くず、かんなくずを出さないよう、整頓、清掃を行いながら作業を進めること。

3　仕　様

（1）木ごしらえ
（1）各部材の仕上げ寸法は、課題図に示した寸法とする。
（2）材面は、中しこかんな仕上げとする。

（2）墨付け、加工、組立て
（1）加工、組立てに必要な墨は、すべて付けること。
（2）全部材に芯墨、芯印を付けること。ただし、木口面には必要としない。
（3）見えがかり木口は、かんな仕上げ糸面取りとする。
（4）柱と胴差しの取り合わせは、一方を大入れ小根枘差し他方を傾ぎ大入れ小根枘差しの通し枘とし、柱面より10㎜突き出し面取り仕上げとする。
（5）柱と方杖の取り合わせは、見面胴付き短斜枘差しとし、所定の位置に釘1本ずづ留めとする。
（6）土台材は、機械加工のままで柱へ釘2本留めとする。
（7）胴差しと間柱の取り合わせは、見面胴付き短枘差しとし、上端の間柱穴は課題寸法どおりに掘るものとする。
（8）火打ちと胴差しの取り合わせは、上端を揃えた傾ぎ大入れとし、2本ずつ釘留めとする。

（3）作品の提出
（1）組立てを完了した者は、審査委員に申し出て作品を提出すること。
（2）提出後は、いかなる理由があっても修正は認めないので十分に確認をすること。
（3）提出後は、周囲に配慮しながら作業場所の清掃を済ませ、審査員の指示に従って速やかに退場すること。

Ⅱ　支給材料　　少年組課題

※とど松上小節

部材名	規格・寸法	数　量	部材名	規格・寸法	数　量
柱	550×102×102	1	火　打　ち	500×52×32	1
胴　差　し	〃	2	方　　杖	450×42×42	1
間　　柱	400×102×32	1	付け土台	330×25×15	1

Ⅲ　使用工具

名　称	規格・寸法	数　量	名　称	規格・寸法	数　量
の　　こ		適宜	墨　　壺	黒色	1
か　ん　な		適宜	墨　さ　し		適宜
筋毛引き	1本竿	1	さしがね	メートル目盛り	適宜
の　　み		適宜	砥　　石		任意
ス　コ　ヤ		1	あ　て　木	厚さ40㎜以上（長さは任意）	1
錐	手もみ三ツ目錐	1	筆記用具		任意
げんのう	大、小	各1	（注）工具破損時の対処として、数量が定められている同一の予備工具を持参している場合は、審査員の確認、指示に基づき使用することができる。		
釘　締　め		1			
バ　ー　ル	かじや小	1			

Ⅳ　会場に用意されているもの

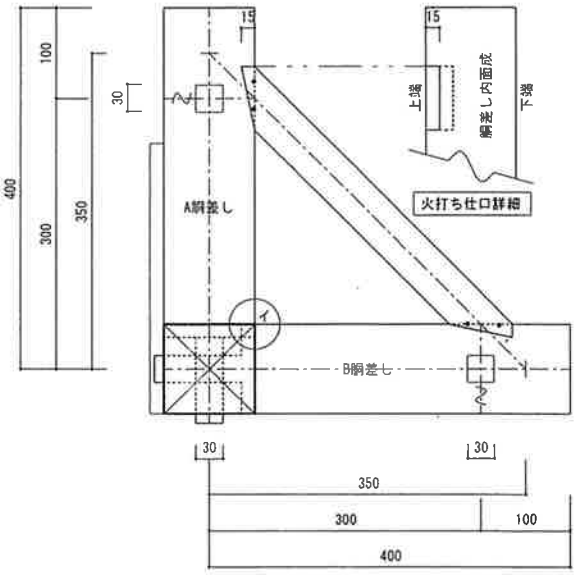
名　称	規格・寸法	数　量	備　　考
削　り　台	木製座り削り台 1，200×300程度	1人当たり1台	
丸　　釘	45㎜	8本	

全道建築大工技能競技大会　少年組課題図

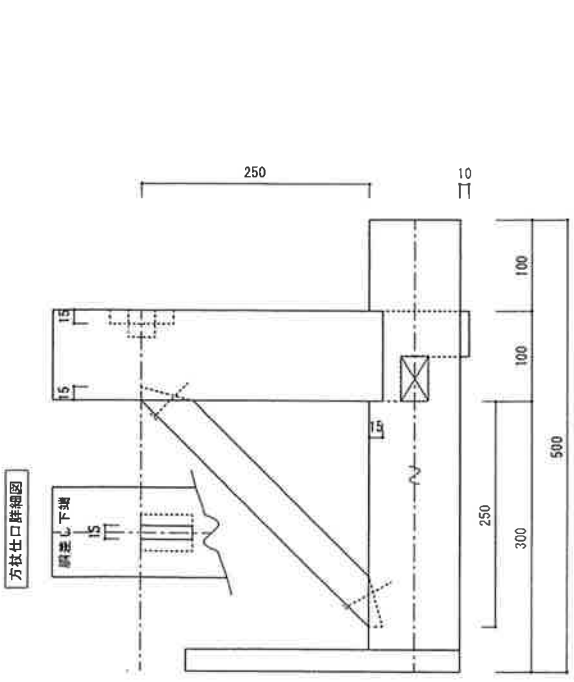
課題［通し柱と胴差しの組み合わせ］

部材名	断面仕上がり寸法
柱	100×100
胴差し	100×100
間　柱	100×30
火打ち	50×30
方　杖	40×40
付け土台	25×15

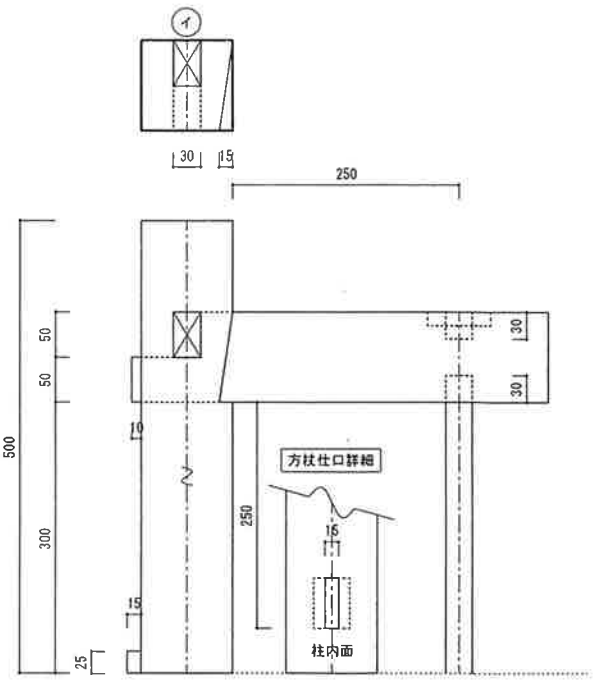
※　課題図記載の寸法単位はｍｍ



平　面　図



左　側　面　図



正　面　図